



コミ・プラ  
マスコットキャラクター  
「ホッポ君」



公民館  
Instagram

# ふじみ町 公民館報

〒399-0211

長野県諏訪郡富士見町富士見 3597-1

コミュニティ・プラザ内 富士見町公民館

Eメール: kouminkan@town.fujimi.lg.jp

No.743

令和7年11月1日

発行 富士見町公民館  
編集 公民館報編集委員会

TEL 0266(62)7900

FAX 0266(62)7611

## 富士見高原の自然の神秘 ～人の生き方を教えてくれている～



### 高原晴雨

粗大ごみ収集日の前日、夕方に古い羽根布団を一枚だけ出しにいった。すでにいろいろなものが公民館の片隅に集まっている光景を眺めながら、誰かの家で長い間活躍してきたものや、役目を終えて押し入れの奥で眠っていた物たちがとうとう放出されたんだなあと、勝手に想像して感慨深く感じた。

物を手放すことは、心の状態によっては難しいこともある。ごみは捨てられるけど、ごみと思えないものは捨てられないし、いろいろな理由としがらみと踏ん切りのつかなさで手放せない。そんな物の存在感を暮らしの空間に無意識とはいえ感じながら暮らしていると、自分の行動力や思考力の重さ軽さに影響をあたえているなと感じる。私の場合は、自分の物なのに要るかわからないかの判断ができなくて、ただ時が過ぎるままに置いてある状態や、持っている服を把握していなくて前に買った服と同じ服を買っていたことに後から気づいたこともある。挙句の果てには、目・鼻・口がついているものは捨てるのはかわいそうだなと感じてしまい、まるで自分の心の輪郭がばやけて物の存在感に浸食されている感じだった。

いっぽう、そこに在ることではっとしたり元氣になれたり楽しかったりする物の比率が高いほど、そこは居心地のいい場所になる。居心地よく感じる空間は一人ひとり千差万別だ。私は観葉植物や、光や風で動くものがあるかというと思う。心が元氣でないままでもとにかく一歩ずつ日々を進んでいくと、なんとなく潮目が変わってきたかとも感じられるときが来る。少しずつ氣力が湧いて、自分の身体を自分でいたわれるようになり、心の輪郭が再びはつきりしてきて、物の要るいらぬをようやく判断できるようになってきた。いらぬ物を手放して部屋の空間が増えていくことで感じられる身軽さを実感できる頃には、いろいろなことが相関しながらさるに変化していく。

自分のスペースにある物を見渡してみれば、心の余白具合も知ることができる。

岩田 良子

## 特集

### 富士見高原の自然の神秘 ～人の生き方を教えてくれる～

富士見の自然は四季折々の姿と神秘的な姿を見せてくれます。しかも、私たち人間に生き方までも示唆してくれるようです。今回はこのことを季節ごとにまとめてみました。

#### 【春】水芭蕉

春の代名詞といえば、水芭蕉。入笠湿原に現れる水芭蕉が私は好きです。どのように子孫を増やしているのでしょうか。写真にヒントがあります。川沿いに芽を出していますね。水の流れて種を運んでいて、たまたま流れて止まったところで芽を出しています。このように、自然界の生き物は、周りの水、木、風とかかわり子孫を増やし、つながり合って生きています。動物に食べてもらって、移動して、糞の中に種があり、運ばれたり、風で飛ばされたりしていますね。今、ここで、たまたまついた、置かれた場所で、精一杯咲いています。



「水芭蕉」



「入笠湿原」



「井戸尻史跡公園」



「富士見高原リゾート鹿の池」

#### 自然から教えてもらおう

#### 春

人も自然もすべてがつながりあっている。全ての出会いに意味があり、その出会いに感謝して、周りの方、生き物、自然に生かされている自分で精いっぱい生きていきたい。

さらに、自然界の生き物からは教えてもらうことがあります。その場所を移動すること、自然界では行われています。疲れたら、休んで立ち止まって、またエネルギーをためて動き出す。自分に合ったところを探すもいい。いろんな動物たちは、そうして生きているのだから。

#### 【夏】蓮と睡蓮のちがい

富士見町の蓮といえば、井戸尻史跡公園の大賀蓮。睡蓮といえば、富士見高原リゾートの鹿の池に浮かぶ、睡蓮が私は好きです。

花の違いは、蓮は7月に水面から高い位置に早朝に咲き、昼間閉じます。開花期間はわずか四日間、四日目は夕方まで咲き、開ききって、散つていき、愛おしさを感じます。咲き終わると花托ができてハチの巣みたいな、シャワーヘッドみたいな形を残します。

睡蓮は水面に浮かび、昼間ずっと咲いていて、太陽の光が弱まると花を閉じ、「眠る蓮」と呼ばれています。咲き終わった後は、とじたまま花は散らず、しばらく沈んでいく潔さを感じます。似ているけど、最後の咲終わりの違いが、なんとも、神秘的です。特に、蓮は、井戸尻史跡公園の古

#### 自然から教えてもらおう

#### 夏

代ハス（大賀ハス）が私は好きです。二千年前の古代から蘇った古代ハスと言われ、蓮の果実の皮は厚く、土中で長時間発芽する能力を保っていたそうです。また、泥の中でも、美しい花を咲かせる葉っぱに特徴があり、水分や泥水が、丸く浮いて、葉っぱを転がっていく神秘的な姿が美しいです。一度枯れても再び芽を出す再生復活の象徴とも言われています。花はお茶、実は漢方や生け花、地下茎は蓮根に（ただし、観賞用は細すぎて食用には不向き）、無駄なものは一つありません。

困難な状況でも、美しさを保つ力、逆境にも負けずに成長し続ける内面の精神力の強さ。たとえ、泥沼な今の人生と感じても、必ず、再生復活できるチャンスがあるのだと教えてくれている気がします。泥がまた大切で、一見、どうどうした人生と思われがちだが、肥料が豊かで、土が肥えているからこそ、やがてはきれいな花が咲く。単に美しさだけを求めるのではなく、きれいな花を咲かせる土台の土を大切に、見えないところの土を豊かにする人生が大切だと教えてくれている気がします。そして、蓮の無駄なところがないことから、すべての命には役割があつて、我々の生まれてきたことにも意味があり、一人一人がかけがえのない命だと思つて生きていきたいです。



## 【秋】落ち葉の虫食い



「富士見町 神戸の森にて」

虫たちも、鳥や小動物に食べてもらって、食物連鎖でつながりあって、生態系ピラミッドが出来上がり、自然の調和がとれています。

自然から教えてもらおう

### 秋

冬の木のように、時には、ほとんど何もしないことを、自分に許し、ゆったり眠って過ごす。休む時は思いっきり休む。休むチャンスを見逃さないのも、生きていくリズムを作る大切なことだと思えます。穴が空いていることは決して恥ずかしいことではない。その人らしい、弱さも認め合える。完璧を目指すだけでなく、不完全も許し合える、それぞれの個性や魅力を認め合う。

そのためには「なんでも言い合える」から「何でも聞きあえる」へ。「幸せ」だけでなく、「苦しみも分かち合える」社会になるといい。

## 【冬】枯葉が落ちた幹と枝

冬の樹は枯れていますか？花や葉っぱはないけれど、生きていますね。一見、華やかではなく幹と枝だけでも、生き続けています。

枝はなぜあるのでしょうか？漢字にヒントがあります。「木」を「支える」と書きますね。真ん中の幹をバランスよく支えるために、四方八方に、枝分

かれています。そして、すべての葉っぱが、まんべんなく、日光を浴びられるように、工夫されているようです。



「入笠山」

自然から教えてもらおう

### 冬

自分の人生を大きな柱（幹）だとして、この柱に枝がなければ倒れてしまいます。いろんな興味を見つけて、やれるかやれないかより、まずはやって体験してみる。自分の興味の枝をどんだんのばし、挑戦してみましよう。そして、いろんな枝で、自分の人生の幹は支えられていく。一つのことしか挑戦しないと、元の幹は倒れてしまう。いろんな挑戦の枝があれば、たとえば、一つの枝が折れても、他の枝が支えている。自分に合ったものが見つかったら、その「枝」を磨く。自分の強みを見つけて「枝」を磨けば、それがやが

ては「枝（わざ）」になる。それが、他人から、価値を見出しもらえたら、仕事になってきます。人の役に立った時に、自分の価値が高まってプロになってきますよね。だから、いつでも、いろんな枝を張り巡らせ、一生涯まなび続けることが大切だと思っています。

「何のために生まれて、何をして生きるのか」人の役に立てるよう、今を精一杯生きていきたいです。

### あとがき

一年を通して、私たちの生活や風景・自然の中にある四季を愛でる心を大切にしたいです。「今ここで」その季節の美しいものを美しいと思え、その良さを楽しみ、感じて動きたい。

楽しさ、美しさは見る側の気持ちのとらえかたで変わるのかもしれない。美しいものを美しいと思える澄み切った心、相手や自然はなかなか変えられない、自分の気持ち次第、自分が変われば見方も変わってきます。出会った自然、出会った人、その出会いには意味があり、そこで何ができるかを考えて、自分の足で前に一歩ずつ進んでいくと、希望が見えてきます。

たとえば、今、苦しい状況でも、必ずや明るい未来が見えてくると信じて、今を精一杯生きたいです。最近、「アンパンマン」の歌を聴いて、自然と涙が出てくるのは、私だけだろうか…。

小林 伸治